

令和4年度 第1回草津市総合教育会議 会議録（要旨）

■日時

令和4年9月2日（金）午後3時から午後5時まで

■場所

草津市役所2階 特大会議室（ステージ側）

■次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 不登校児童生徒への支援
～草津市の不登校児童生徒から見る子どもの現状と課題～
 - (2) 子ども読書活動の推進について
～楽しく読書できる環境を整え、読書が大好きな子ども達を育てるために～
3. 閉会

■出席委員

稲垣委員、松嶋委員、小辻委員、我孫子委員

■出席理事者

橋川市長、藤田教育長

■事務局出席者

総合政策部	木村部長、岸本副部長（総括）
企画調整課	森下課長
子ども未来部	金森部長、黒川副部長（総括）
子ども家庭・若者課	松林課長
教育委員会事務局	増田部長、菊池理事（学校教育担当）、田中副部長（総括）、二井副部長（図書館担当）兼図書館長、上原副部長（学校教育担当）兼学校教育課長
教育総務課	吉田課長、永田係長
児童生徒支援課	柴原課長、北村課長補佐
教育研究所	木村所長、恒松副参事
生涯学習課	上原課長

1. 開会

- 開会に当たり、市長より挨拶

2. 議題

(1) 不登校児童生徒への支援

～草津市の不登校児童生徒から見る子どもの現状と課題～

【事務局説明】

(資料1について説明)

【質疑応答・意見交換】

●市長

基礎的な数字として、不登校児童生徒の割合と人数を教えてください。

- ・柴原児童生徒支援課長

小学校では令和3年度1,000人あたり13.6人で、昨年度、草津市内の小学生が8,382人で114人の児童が30日以上欠席ということになる。

中学校では1,000人あたり57.3人で、昨年度、草津市内の中学生が3,615人で207人の生徒が30日以上欠席だったことになる。

●市長

適応指導教室の利用者数を教えてください。

- ・木村教育研究所長

やまびこに通っている人数は、令和3年度延べ人数で(1人、1日出席を1人と数える)

1,150人となる。在籍数は毎月変動があるが、一番多い月で10月から12月で21人在籍していた。

●市長

フリースクールの補助制度の申請者が6人と説明されたが、補助は受けていないがフリースクールを利用している全体の人数がわかれば教えてください。

- ・柴原児童生徒支援課長

令和3年度フリースクールの利用者は14人で実際に補助金を出したのは11人だった。

残りの3名は認定外の施設だったため補助金の適用がなかった。

●市長

別室登校の人数は。

- ・柴原児童生徒支援課長

正確な数字はないが、10人から20人の子どもさんが利用されていて、朝に一度登校して

帰るというわけではなく、その子のペースで登下校をしている状況。

●松嶋委員

不登校の主なきっかけを把握するにあたって特に先生との関係性について、学校側の回答と児童生徒側の回答結果にギャップがでている。学校側が原因を特定しようとする際、直接先生に言いづらいなど、原因が特定しにくいことがあるかと思うが、何か工夫をされているのか。例えば、相談できるチャンネルを増やすとか。

・柴原児童生徒支援課長

学期に1回程度は教育相談という期間を設けている。

また、毎日の中で気になる児童生徒に対して機会をとらえて話し合う場を持っている。

アンケート調査も学期に必ず実施している。

●松嶋委員

教育相談のあり方について、メールやライン等も希望があるようだが、なにかそういう窓口はあるか。

・柴原児童生徒支援課長

草津市独自ではないが、県で設けており、周知を図っている。

・市長

子ども家庭・若者課に総合窓口を設けるので、電話やメール等でも対応する予定である。

●小辻委員

スクールソーシャルワーカーの支援体制の充実について教えてほしい。

・柴原児童生徒支援課長

不登校児童生徒等への心的な部分へのアプローチとして、各学校にできるだけ相談したいときに相談できる体制づくりとしてスクールカウンセラーを配置したいと考えている。スクールソーシャルワーカーも当然必要で、相談している状況もあるが、まずはスクールカウンセラーで対応したい。

●小辻委員

教員もしくは教育委員会の中に社会福祉士の資格を持った方はおられるか。

・柴原児童生徒支援課長

教育研究所に配置している。

●稲垣委員

不登校は非常に複雑で難しい問題。原因も多種多様。対応する先生も大変だと思う。

まずは命を守ること。自殺に至らないことが大事。

それから、不登校によって学力を落としてはならない。二次的に不登校の継続につながる。やまびこは遠い。近い人は行けるが、行きたくてもいけない原因になっているのでは。各校区にはまちづくりセンターがあるので、学習環境、生活環境の自立支援の施設があってもいいのではないかと思う。ただし、人員、予算が必要だが、教職員のOBや地域で社会福祉士の資格を持った方を募って、定期的に来てもらうことは可能では。ただし、個人情報の取扱い、守秘義務の問題はある。担任に言いにくいことも近所のおじさんおばさんには言いやすいこともあり、自然に心の内を吐き出すことができる場があることで、原因究明ができたり、支援ができたりする。

●我孫子委員

長期休み明けはしんどくて、自殺も多くなる。

子どもは、いろんなストレスに対して、解決してほしいという思いもあるが、自分がつらい状況を聞いてもらいたい、分かってもらいたいという気持ちが強いのではないかと感じる。

3, 4日欠席が続くと、先生による家庭訪問や校内ケース会議が確実にされていることは大事で素晴らしいと思う。

アンケート結果にもあるように、直接先生には言いにくいこともあり、客観的な立場で聞いてもらえることで話しやすくなり、スクールカウンセラーの充実を進めてほしい。

1人1台端末の整備がされていることから、例えば相談アプリのようなものを入れるなど個人の端末を活用してはどうか。

学校は大人になって生きていくための準備期間で、その中で抱える問題はさまざまでありいろいろな選択肢があるとよい。

●松嶋委員

スクールカウンセラーについて、自分の子どもの関係で対応いただいた。

間に入っていただけることで、話がスムーズに進んだ。先生に直接言いにくいことも言いやすかった。保護者としても頼りがいがある。

今回の資料からも小学校で需要が高くなっている。教員からのニーズも高いと思うので、もっと迅速に相談できる体制を整えば、保護者も学校もより太陽しやすくなると思う。

●松嶋委員

1人1台端末があるので、日常的に使えるようにしたうえで、相談など児童からの発信に使えるようにしてはどうか。

●小辻委員

やまびこは距離的に通うのがむずかしいということで、キラリエを活用してはどうか。人目につかないところより、人が多いところ（人の賑わいがある地域、場所）を活用してもいい

のではないか。

●小辻委員

スクールソーシャルワーカーの数が十分でなく、充実させてほしい。以前からスクールソーシャルワーカーの側面を先生が担ってきたと思う。先生がするのは大変であり、難しく、負担の軽減が必要。スクールカウンセラーも大切だが、スクールソーシャルワーカーも増やしてほしい。

●稲垣委員

先生が原因となる不登校は多いが、先生との相性もある。一概に先生に問題があるという事ではない。

職員の風通しのよさ、意見の言いやすさ、情報共有のしやすさが大事であり、担任1人が抱え込んでしまう事がないよう相談し、意見が言い合えることが大事。

スクールカウンセラーは中学校で充実しているが、中学校で急激に増える原因は小学校からすでに何かあるはずなので、スクールカウンセラーもスクールソーシャルワーカーも充実して、自由に巡回できるような人を配置し、適宜、緊急を要するときは連絡を取れる体制を取ってほしい。

●市長

相談も含めて居場所を作っていくことが大事。

引きこもりにならないように、学習支援ソフトで双方向のやりとりができるようにしたり、顔を合わせる事が苦手な子どもには、メタバースでの学習・交流といったものもあるようなので、それを第一歩として、登校へつながる仕組みづくりなど考えていきたい。

●教育長

保護者も非常に大きな不安を抱いていると思う。保護者へのケア、支援も必要ではないか。保護者の方が集まっておられる事例もあると聞いている。プライバシーの問題もお互いに共感できるような場所も必要だと思う。

どこへ相談すればいいかわからない。

子どもたちの現状など先生への研修をしっかりとしていかなければならない。もちろんすべて教員がやるべきということではないということも伝える。

意見のまとめとして、一つ目は相談窓口の問題。複数のチャンネルを作っていく。二つ目は草津市の特徴として小学生の不登校児童が多いので、小学校の支援強化を行い、スクールカウンセラーの小学校の配置や巡回体制の整備を行いたい。三つ目は、「やまびこ」についてやまびこのアクセスの問題を解消するため、まちづくりセンターなど身近なところで設置したい。ただし、どういう人を配置するのが適当か、考える必要はある。

小中学校期をしっかりと支援して、社会で活躍できる人づくりが教育に求められている。

●市長

市教育委員会だけの問題ではない。福祉部局や県教育委員会とも連携して対応していく。限られた予算の中ではあるが対応していく。

(2) 子ども読書活動の推進について

～楽しく読書できる環境を整え、読書が大好きな子ども達を育てるために～

【事務局説明】

(資料2について説明)

【質疑応答・意見交換】

●松嶋委員

様々なイベントをされているが、もともと本を読まない子どもは参加しにくいのではないかと。普段、不読だがイベントに来たきっかけなどデータはあるか。

・二井図書館担当副部長

アンケートにそのような項目はないのでデータがない。

●松嶋委員

イベントの案内はメール配信されていないのか。

・二井図書館担当副部長

メール配信はしていない。乳幼児の場合は専用アプリで行事予定等を配信している。コンパスなど広報紙は活用。

●松嶋

保護者や生徒から能動的にイベントが見つからない。発信力をもってやってほしい。

●市長

令和3年度から4年度に不読率が増えているが、原因等は何と考えられるか。

・上原学校教育担当副部長

原因は、ゲーム、SNS使用の増加、そのあたりとの相関関係は考えられる。

コロナ禍で家にいる時間が増えても、読書量の増加にはつながっていない。

●市長

草津市の児童生徒の不読率や読書量、あるいは読書時間等は全国と同じ傾向か。

・上原学校教育担当副部長

全国のデータが令和4年度分が出ていないが、全国に比べると不読率は低い。本を読んでいる傾向はあるが、それでも不読率は増えている。

●小辻委員

本の定義は、紙に限定されているのか。電子書籍は含むのか。

・上原学校教育担当副部長

紙媒体に限る。漫画は除く。

●我孫子委員

東大生の話で、小学生のとき、シリーズものをよく読んでいたことや様々なジャンルの本を選んで読める環境（家で）があった。やはり自分で本に触れられる環境が大事だと感じた。子どもだけで図書館に行くことはできないので、移動図書館のようなものがよく行くところ、近くにあるとよい。

加えて、お話し会も併せてあると、人との触れ合いもあり、なおよい。

保護者に向けて、読書の良い影響について伝えていくことが大事ではないか。

・二井図書館担当副部長

家読サポート事業というのがある。例としてPTAを対象に司書を派遣し、読書の大切さについて伝えたり、1歳半健診などの機会を通じてチラシの配布や読み聞かせなど行っている。

●松嶋委員

イベントの発信力の問題。メール等で通知があると行きやすい。強化してはどうか。

ポイントカードや読書マラソンの話が紹介されたが、生徒たちが話し合っ、生徒主体でどうしたら本を読めるか考えさせてはどうか。

自分たちで決めさせるとやる気が出る。

●稲垣委員

図書館として精いっぱいいろいろされている。子どもは読み聞かせてもらうのは好き。自分たちで読めるかどうか読書活動の推進。

保護者の姿勢は大事。しっかり読み聞かせた子どもは読書好きになる。図書館のせいではなく、家庭への啓蒙、啓発が重要。親が読めば子どもも読む。

学校でも読ませたいが、なかなか時間がない。

学校の本が汚くて古い。そうすると読まない。新しい本は子どもが喜んで読む。学校に常設してあるという事は大事。

蔵書数は満たしていても、古い本を子どもは読もうとしない。今の学校図書館には古い本も

含めて蔵書数を満たしているという事になっているが、その回転率が大事。
移動図書館が学校に定期的に来てくれると大変ありがたい。子どもはよるこんで飛びつく。
必ずしも小さいころから読まないといけないと大きくなって読まないというものではない。

●小辻委員

本に興味がある人は、家に本があるとか、図書館の本を借りられる環境がある。
家でずっとゲームばかりしているわけではない。子どもはいろんなことに興味を持つもの。
そのとき、家に本があれば興味を持って読んでみようとする。本がない環境は致命的。
きっかけのひとつとして、生活環境を整える観点から本を取り入れる提案があると楽しい
のではないか。
視覚障害者への対応も検討してほしい。テキストデータ、オーディオブックの提供など。

●市長

スマホの時代。不読率にも影響していると思う。
家に本が置いてある家庭環境づくりや読書の良さを伝える啓発が大事。
一方で読書していかないと大変なことになると保護者に伝えることも大事。
『スマホ脳』という書籍がある。脳の発達低下、機能低下に影響。反応は早いと考えが浅
いといったことが書かれている。
図書館の周年事業があるが、読書のまち宣言 「スマホをやめて読書をしよう」といったこ
とも考えてはどうか。

●教育長

読書の良さは直感的にわかっているが、エビデンスも含めてしっかりと伝えていく機会を
設けていきたい。
本と出合える環境、接する環境は非常に大事。学校に移動図書館が来てくれるとよい。
図書館は、図書館以外の機能も持ち合わせ、本以外の魅力もあり人が集える場所になるよう
研究したい。本から攻めずに違う観点からアプローチも検討したい。

●市長

読書は非常に大切だと私も感じている。
教育委員会とともに不読率を下げる取組を進めたい。
環境をどう整えていくか。また子どもたちが本を読むという気にさせるにはどうしたら
いいか。自然と行動する仕掛けづくりを検討していただきたい。

3. 閉会

●閉会に当たり、市長より挨拶